

手稲宮丘小学校児童がみんなで集めたリングプルで車椅子を寄贈



3月8日(木曜日)、手稲宮丘(ていねみやのおか)小学校(札幌市西区宮の沢3条2丁目、中橋理子(なかはし のりこ)校長)で、同校児童から西町連合町内会(白崎光彦(しらすき・みつひこ)会長)への車椅子の贈呈式が行われました。

同校では7年ほど前からリングプル集めを始め、「リングプル再生ネットワーク」という団体を通してこれを車椅子に交換するという方法で、これまでに2台の車椅子を地域の介護施設に寄贈してきました。今回の車椅子は、子どもたちが地域住民の協力も得ながら2年間かけて集めた約720キログラムのリングプルを交換したもので3台目。広く地域の人に

使ってもらいたいと、同連合町内会への寄贈を決めました。

贈呈式では、6年生で同校環境委員会の田辺廉(たなべ・れん)委員長と岡野駿人(おかの・はやと)副委員長が代表して白崎会長に車椅子を手渡しました。田辺君によると「なかなか集まらない時期には、呼び掛けの回数を増やした」など色々工夫したそうで、夏冬の休み明けにクラスごとに回収量を競う「プルタブ競争」なども行いました。車椅子を受け取った白崎会長は「みなさんの努力の結晶をいただいたつもりで、地域で有効活用させていただきたい」と話していました。

この車いすは避難場所でもある西町まちづくりセンター会議室に置かれ、今後、地域の様々なイベントに貸し出すなど西町地区全体で活用していく予定です。

【まちセン所長のコメント】

手稲宮丘小学校児童のみんなありがとうございました。西町連合町内会で大切に使用いただければと考えております。

小学生児童がチョコレートスイーツ作りに挑戦



3月11日(日曜日)、西町まちづくりセンター(札幌市西区西町北6丁目)で小学生らがチョコレートスイーツ作りに挑戦するお菓子作り教室が開催され、近隣の4小学校(西園、手稲東、手稲宮丘、西)の1年生から6年生まで36人が甘いひとときを過ごしました。

主催は、連合町内会、子ども会、商店街、企業などが連携してまちづくり活動に取り組む「西町・コンサ通りまちづくり実行委員会」(原田光雄(はらだ・みつお)委員長)。子どもたちが身に付けたエプロンと帽子は、委員会に名を連ねる石屋製菓(株)から無償提供を受けました。

作り方は、板チョコレートをきざんで、湯せんして溶かし、イチゴやバナナ、マシュマロ、ポテトチップスなどをくぐらせてチョコを付けるという簡単なもの。さらにその後、「カラースプレー」と呼ばれるカラフルなチョコやココナッツパウダーをまぶすなどして、子どもたちは思い思いに飾り付けしていました。

出来たお菓子はその場で食べ、「おいーい!」「甘ーい!」などの歓声と共に子どもたちは皆一様に笑顔に。何個も食べて一通り満足した後はお持ち帰りの分も作りました。持ち帰るためのバッグも子どもたちが厚紙とリボンを使って自作。ハートや星のシールを貼って飾り付けしたかわいいバッグが完成しました。

参加した4年生の女の子は「甘くておいしかった。持って帰ってお母さんにも食べさせてあげたい」と笑顔で話していました。



西町連合町内会が表彰されました：札幌市防災表彰



携、4回にわたる勉強会を経て、高齢者など避難するときに助けが必要な人（災害時要援護者）の救出訓練など、より実践的な要素を取り入れた訓練を実施したことが評価されたものです。

1月30日（月曜日）、札幌市役所本庁舎（札幌市北1条西2丁目）で、積極的な自主防災活動を行っている団体を表彰する「札幌市防災表彰式」が行われ、西区から西町連合町内会（白崎 光彦（しらすき・みつひこ）会長）が表彰されました。これは、札幌市が毎年、各区から1団体を選出して表彰しているもの。西町地区は今年度、西区のメイン会場として防災訓練を実施。今回の表彰は、計画段階から住民が主体的に取り組み、民生委員や福祉のまち推進センター、まちづくりセンターなどと連

【まちセン所長のコメント】

おめでとうございます。
受賞時に、白崎西町連合町内会長からもお話がありましたが、今後も日頃からの見守りなど、地道な活動を地域全体で連携して継続することが必要であると認識しております。

高齢者が安心して暮らせる地域を目指して



の研修会は、西町連合町内会、西町地区福祉のまち推進センター、西町地区民生委員児童委員協議会が連携して開催。近年、高齢者や障がい者の孤立死が全国的に注目されている事もあり関心が高く、それぞれの関係者など約200人が集まりました。この日、説明を行ったのは西町連合町内会福祉部長の原田光雄（はらだ・みつお）さんと、アドバイザーとして参加した西区社会福祉協議会の荒正和（あら・まさかず）さん。二人からは「声掛けなどを行い、地域の交流会などに参加し社会とのつながりを保つことが大切」「干渉されることを嫌がる人もいるので、電気はついていないか、洗濯物は干されているかなどをそっと見守ることも必要」「要支援者に対して、民生委員だけの見守りでは難しくなっているため、町内ぐるみでの見守りが必要」などの話があり参加者らは真剣な表情で聞き入っていました。

2月9日（木曜日）、札幌市生涯学習総合センター（ちえりあ、札幌市西区宮の沢1条1丁目）で、西町地区の「見守り推進委員会」についての研修会が行われました。

「見守り推進委員会」はこの地区独自の呼称で、一般的には「福祉推進委員会」と呼ばれています。地域住民が見守り推進委員となって、町内会の役員や民生委員などと連携して一人暮らしの高齢者など支援が必要な人を見守ろうというもの。高齢化と近所付き合いの希薄化を背景に、孤立死や詐欺などの消費者被害が増加していることから、近年導入する町内会が増えています。今回